

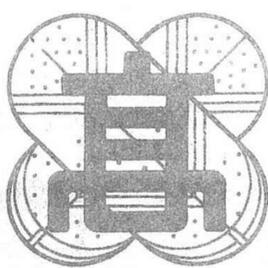
# 本質学ぶ気概

## 各界で脈々と



藩校当時の玄関部分に主屋が増築された福山誠之館高の記念館。現在地に移築され、2001年に国の登録有形文化財となった

＜かつての卒業生＝文化・学術＞葛原しげる(1886～1961年)童謡作詞家。福山市名誉市民▽森戸辰男(1888～1984年)広島大学長。文部相。衆院議員。文化功労者。広島市・福山市名誉市民▽藤井清水(1889～1944年)作曲家▽福原麟太郎(1894～1981年)英文学者。文化功労者。福山市名誉市民▽井伏鱒二(1898～1993年)小説家。代表作に「山椒魚」「黒い雨」など。文化勲章を受章。広島県名誉県民、福山市名誉市民▽宮地伝三郎(1901～88年)動物生態学者。京都大教授▽小山祐土(1906～82年)劇作家▽大島久見(1915～2004年)能楽シテ方喜多流職分▽藤原弘達(1921～99年)政治評論家。明治大教授▽栄久庵憲司(1929～2015年)工業デザイナー。戦後の第一人者としてしょうゆの卓上瓶や秋田新幹線の車体などを手掛けた▽大楽華雪(1931～2019年)書家▽藤家虹二(1933～2011年)クラリネット奏者



福山誠之館高は、江戸幕府老中で福山藩主の阿部正弘が開いた藩校を源流としている。米国のペリー来航以来の国難に対処できる人材の育成が狙いだった。

現代ロシア論や国際政治学が専門の青山学院大・新潟県立大名書教授袴田茂樹(77)は母校の歴史から「単に受験のためでなく、物事の本質を考えるために学ぶ校風があると思う。それぞれが関心のあることをやり、私も本質を考える基礎をつくった」と振り返る。

物理や数学が得意で物理研究部に入り、アマチュア無線や写真現像に打ち込んだ。ノーベル物理学賞を受けた湯川秀樹に憧れ、大学で原子物理学を学ぼうと考えていたが、世界史の本をさまざま読み衝撃を受けた。「時代や国によって価値観が全く異なる。当たり前と考えていることを歴史的に検証したい」と東京大で哲学を学んだ。大学卒業後は、シベリアに抑留された後も旧ソ連で暮らしていた父の誘いでモスクワ大大学院へ。ロシア人の国民意識などを5年間研究し、帰国後は研究職に。1980年代後半から旧ソ連の民主改革ペレストロイカ、社会主義国の崩壊が相次いで起き、専門家としてマスコミに登場してきた。若い世代には「自分の言葉で語れる人になってほしい」と呼び掛ける。



青山学院大・新潟県立大名書教授 袴田茂樹

### 平和を築く。国内外で人道支援に尽力



菅波茂

災害や紛争の地に医療従事者たちを派遣する国際ボランティア団体AMDA(アマダ、岡山市)理事長の菅波茂(74)は、高校2年の時に見た写真が活動の原点。南方戦線の浅瀬で倒れた若い日本兵の写真を祖父の蔵書に見つけ、くぎ付けになった。「自分と同じ若者がなぜこのような死に方をしなければならなかったのか。どうすれば平和を築けるかを考えるようになった」

岡山大医学部に進み、医師に。アジア各国を巡り、難民救援にはネットワークが必要と感じた経験から84年にAMDAを設立。「困った時はお互いさま」と被災地などで支援してきた。現在は32カ国・地域に支部を置き、これまでの支援活動は200件を超える。母校の後輩もAMDAの要請に応じ、2011年の東日本大震災で岩手県に向かうなど、被災地で支援をしてきた。「国難に対処する建学の精神が今も生きている」と感謝する。



佐野俊二

世界的に有名な小児心臓外科医で米カリフォルニア大サンフランシスコ校(UCSF)教授の佐野俊二(69)は「自由な校風の下で素晴らしい友人や個性的な教諭に恵まれた」と顧みる。一番の思い出は3年の時の高校野球広島大会。野球部が決勝まで勝ち進み、甲子園出場まであと一歩で敗れたものの、何度も球場に駆け付け応援した。小学4年の時に左肘を複雑骨折して治療を受けた経験から、岡山大医学部へ進んだ。

### 志なお高く。進んだ場所で面白がって



森迫清貴

卒業後、担当した骨肉腫の高校生を手術しても再発を繰り返して亡くなった。この限界を感じた。手術が巧みなら患者を救えると考え、心臓外科医を目指した。ニュージージーランド、オーストラリアで世界的名医に師事し、帰国後は岡山で新設された心臓血管外科の教授に41歳の若さで就任。心臓病の高度な手術や再生医療に国内外で実績を重ね、16年にUCSFへ移った。「70歳が近いが、小学生時代からの夢を今でも追い求めている」

京都工芸繊維大学長の森迫清貴(68)は「勉強よりスポーツに遊びと、やりたいことを楽しんだ」と回顧する。クラブは硬式テニス部。サッカーやマラソンなど校内の競技大会でも汗を流し、切手収集の同好会もつくった。

建築を学ぶため京都工芸繊維大に進学。小中学時代の一時期を過ごした倉敷市で丹下健三設計の市庁舎(現市立美術館)、大原美術館などの建物を見て関心を抱いてきた。同大で研究職に就き、専門は建築構造力学。18年から学長を務める。後輩に「進んだ場所で面白がってやれるかどうかが大切。どのように自分を高めるかを自ら考えてほしい」と語る。

学術・医療分野では他に東京工業大名誉教授(機械工学)で元拓殖大学長の坂田勝(88)、京大名誉教授で元奈良県立医科大学長の吉田修(86)、元大阪大歯学部長作田正義(84)、国立民族学博物館名誉教授(中米言語学・文化史)八杉佳穂(71)、元広島市立広島市民病院院長荒木康之(65)たちがいる。 敬称略 (編集委員・岩崎秀史)

今回は27日に掲載します。